



吽像

阿像

有形文化財（彫刻）

25. ^{もくぞうこまいぬ}木造狛犬 2頭一対

- 指定年月日 昭和63年3月18日(1988)
- 像 高 阿像49.5cm 吽像49.5cm
- 所在地 大谷町2-56
- 所有者 ^{おおたに}大谷神社

神仏の霊を守護するものとして作られた狛犬は、コマの名が示すように中国や朝鮮半島にルーツがある。もともと獅子の形が基本で墓前や廟に置かれたものである。日本では神社の社前におくのが普通である。

2頭とも一木材を丸彫りしたもので、形姿は同じく両耳を立て、まき毛と流し毛を併用したたてがみを肩まで垂れ、前足を立て後足を屈している。頭から胸にかけての上半身は大きい、腰から後足にかけての下半身はやや貧弱で、バランスがとれていない。素朴な地方作と思われる。

2頭とも底面に墨書銘が記されている。

(阿像) 天文八稔 ^{己亥} 六
白山妙理大権現 助友新

兵衛
敬白
(吽像) 天文八稔 ^{己亥} 六月廿四日
白山妙理大権現 本願 助友之
新家
兵衛次郎
敬白

大谷村にあった白山神社に対して、同村の旧家助友一族が天文8年に奉納したことがわかる。なお、助友氏は天文9年(1540)白山神社造営の願主となっているが、この狛犬もその際の寄進であろう。

素朴な作りとはいえ、製作時期が確かであることから、この時期の地方の有力者の動向を知る手がかりとなる造形資料で貴重である。